



金管アンサンブルの編成と特徴を知っておこう

金管アンサンブルの代表的な編成は、金管五重奏と金管十重奏です。それぞれの編成の特徴と、アンサンブルの基本を理解しましょう。金管アンサンブルでいろいろな曲にチャレンジすることは、演奏技術のレベルアップにとっても役立ちます。



Point 1 金管五重奏の編成と特徴

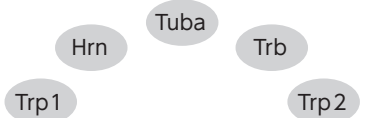
金管五重奏は、トランペット2人、ホルン・トロンボーン・チューバ(バストロンボーン)各1人の5人による金管アンサンブルの編成です。5人の並び方は、演奏する曲やその団体のメンバー構成などによっていろいろなパターンがあります。

金管五重奏は、オーケストラの主要な金管楽器で構成されているアンサンブルなの

で、高音域・中音域・低音域のバランスが良く、弦楽四重奏のような室内乐的なサウンドが特徴です。ひとりひとりが自分の役割を理解して音楽的な表現を追求することで、密度の濃い演奏をすることができます。

練習する時には、曲想やテンポなどが変わるところなどで誰が合図を出すかをあらかじめ決めて、「いつ、どこで、誰を見るか」を譜面に書き込んで整理しておくようにしましょう。

金管五重奏の並び方例



(あくまでも一例です)

▶金管セクションのリーダーどうして金管五重奏を練習すると、お互いにそれぞれの個性や吹き方などが良く理解できるようになるので、合奏での音楽作りにも役立ちます。



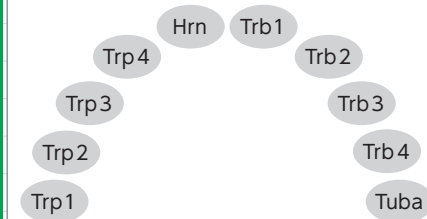
Point 2 金管十重奏の編成と特徴

金管十重奏は、トランペット4人、ホルン1人、トロンボーン4人、チューバ1人の10人による金管アンサンブルの編成です。この編成は、イギリスの「フィリップ・ジョーンズ・ブラス・アンサンブル」という金管アンサンブルの編成に基づくもので、金管アンサンブルの編成の定番レパートリーとして、非常に多くの曲が出版されています。10人の並び方は、右の図のようなパターンが一般的ですが、演奏する曲やその団体のメンバー構成などによっていろいろなパターンがあります。

金管十重奏は、編成が大きい割に指揮者がいないので、それぞれがお互いのパートの動きを良く知っておくことが大切です。練習する時には、金管五重奏と同様に、曲想やテ

ンポなどが変わるところなどで誰が合図を出すかをあらかじめ決めて、「いつ、どこで、誰を見るか」を譜面に書き込んで整理しておくようにしましょう。また、ホルンがメロディを担当する時には、ベルが後ろに向いていることも考慮して、ホルンの音量を越えないようなバランスで演奏するようにしましょう。

金管十重奏の並び方例



第3章



今日の課題

金管アンサンブルの編成と特徴を理解する

金管アンサンブルを練習すると耳が鍛えられ、個人的な演奏技術もアップします。特に金管十重奏はレパートリーが豊富なので、仲間を誘っていろいろな曲にチャレンジしてみましょう。

